

# 精神科領域における ICD-11作成に向けた取り組み

「臨床実地フィールドスタディ」の概要

# 目的

- 評価者間信頼性の検討
  - 独立した 2 人の専門家が、同じ情報をもとに同じ診断に到達するかを検討
- 診断ガイドラインの日常臨床における有用性の検討
  - 臨床医が患者の状態を理解するのに診断カテゴリが有用であるか
  - 診断ガイドラインが実際の臨床症例と一致しているか
  - 日常の臨床現場で診断ガイドラインを使用することが現実的に可能か
  - 適切に個々の患者の状態を評価することが可能か

# 対象

- 対象となる病態（実施施設の患者層により、下記よりプロトコルを選択）
  - プロトコル 1：精神病症状のある成人患者
  - プロトコル 2：精神病症状のない成人患者
  - プロトコル 3：精神病症状と明らかな発達の障害のない児童思春期患者
- 評価を担当するのは経験年数 2 年以上、週の臨床業務が 10 時間以上の精神科医

# 方法

- 当該施設で実施中のプロトコルに適すると思われる患者が通常の診療中に見つかった場合、担当医が本研究について案内
- 通常の診療時間とは別枠で、担当医でない評価を担当する2名の医師が同席し面接を実施
- 上記2名の医師が、互いに相談せずICD-11診断ガイドラインに沿って診断を決定・入力
- 診断ガイドラインの有用性についても評価・入力

# 解析

- 本研究はWHO 国際多施設共同研究であるため、取得された全世界のデータは、WHO により **一元管理**される。ただし、WHO で定められた手続きにより、申請者に対して個人情報を含まない形式でデータが提供されることになっている。
- 本研究では、わが国で実施した研究データを WHO から取得し、**WHO が行う解析とは別に独自に**解析を行う。